

# 祈りの友 第171号

2020年 1月

会長ビデオから

## 詩篇 139：1—6

リース・カウフマン

私は、聖書の中で好きな人物が大勢いますが、その中で一番際立って好きな人物はダビデです。

ダビデの生涯はとても興味深く、ダビデが書いていることはとてもすばらしく、そして何よりもダビデは神さまの心にかかった人でした。ダビデの死後、主はダビデについてそのことを二度言われました。

詩篇 139 篇はダビデが書いた詩篇のひとつです。この詩篇はとても豊かで、神さまがどれほど私たちをよく知っておられるか、どれほど本当に私たちを知っておられるかを分かせてくれます。ダビデは神さまととても親密な関係を持っていました。詩篇 139 篇を見るときそれがよく分かります。この詩篇の最初の6節で彼が言っていることを見ましょう。彼はこの詩篇を「主よ。あなたは私を探り、私を知っておられます。」(1節)と始めています。

私は聖書の言葉使いや正確さについて異議を唱えたりする者ではありませんが、この箇所についてチャールズ・スポルジョンが言っていることとお話しします。スポルジョンは「この聖書の箇所は正確ではありません。」と言っています。最初にそれを聞いたとき、彼が言っていることにショックを受けましたが、それは本当でした。

ダビデは「主よ。あなたは私を探り、私を知っておられます。」と言っています。私が指摘したいことは、あなたが何かを探すときは、それを知らないからです。私が

ペンをポケットから取り出してどこかでそれを落としたら、床の上や机の下、家の中やじゅうたんを「ペンはどこへいったのだろう。」と探します。私はペンがどこにあるか知らないで、それを見つけるために探さなければなりません。

神さまは決して何かを探さなければならぬということはありません。ダビデが「あなたは私を探り、私を知っておられます。」と言ったとき、神さまはすでにすべてのことを知っておられました。それは、私たちの神さまの知識はとても偉大で、広大なので、限りある人間の言葉ではそれをあらわすことができないということなのです。それで人間が理解できる最善の言葉でそれを表したのです。

ダビデは「あなたは私を探り、私を知っておられます。」と言っています。それから彼は「あなたこそ私のすわるのも、立つのも知っておられ」と言っています。あなたが生活の中でするすべてのことを考えてください。あなたが立つとき、すわる時、歩くとき、寝るとき、神さまはそれを知っておられます。神さまはあなたがすること、あなたがしたこと、またあなたがこれからしようとするすべてのことを知っておられます。神さまはすべてを知っておられます。彼は続けてあなたは「私の思いを遠くから読み取られます。」と言っています。

このことをしばらく考えてみましょう。あなたが考える前に、神さまはすでにそのことを知っておられます。考えてみてください！あなたが考える前に知っておられるのです。神さまはあなたが次に何を考えるかを知っておられます。「あなたは私の歩みと私の伏すのを見守り、私の道をことごとく知っておられます。」(3節) 神さまはあなたが今日行くところのすべて、会おうとしている人のすべてを知っ

ておられます。あなたが運転する道、あなたが歩く道を神さまはすでに知っておられます。彼は「ことばが私の舌にのぼる前に、なんと主よ、あなたはそれをことごとく知っておられます。」(4節)と言っています。あなたが言葉を話す前に、神さまはすでにあなたが次に言う言葉を知っておられるのです。そのことについてしばらく考えてください。ときどき、あなたは「私はそれを言わなくて良かった。もう少しで言いそうになったけれど、言わなくて良かった。」と言いますが、ちょっと待ってください。それは手遅れです。あなたが考える前に神さまはあなたの心とあなたの口から出る言葉を支配する思いさえも知っておられます。神さまはそれらすべてに気づいておられます。神さまの前に正しくあるということは、それはただ言うことだけではありません。考えることだけでもありません。神さまはあなたが言う前にそれを知っておられます。

5節は言っています。「あなたは前からうしろから私を取り囲み、御手を私の上に置かれました。」このことを心に描いてください。神さまはあなたを取り囲んでいると言っておられます。神さまはあなたの前におられ、あなたの横におられ、あなたの後ろにおられます。神さまは御手をあなたの上においておられます。

囚人が法廷から出て、護送車に入れられるところを想像してください。彼らがどのように出てくるか。看守が囚人を取り囲み、彼を導き、彼の腕を持ち、歩いて出てきて車に乗せます。またはこのような場面を想像してください。大統領候補者や政府高官を想像してください。彼は危険から守られています。彼らが囚人を監視するときもだれかを危険から守るときも、彼らは彼を後ろからも、前からも取り囲んで彼を導き、これから行くところに彼を守って連れ

出します。

それがまさしく神さまが私たちになさることです。神さまはいつも私たちの周りにおられ、私たちを守り、見守っておられます。考えると、何と驚くべきことでしょう。

彼は6節を続けます。「そのような知識は私にとってあまりにも不思議、あまりにも高く、及びもつきません。」とまとめています。

私は今日、あなたにチャレンジします。神さまはあなたが言葉を言う前にそれを知っておられ、考える前にその考えを知っておられ、神さまはあなたを取り囲み、すべての道を知っておられ、あなたが会おうとする人をすべて知っておられ、今日あなたが歩くすべての場所を知っておられ、あなたが歩く一步一步を知っておられるという事実について考えてください。神さまはそれらすべてを知っておられます。神さまは前から後ろからあなたを取り囲み、行ってはいけない所に行きそうになるとき、そこに行かないように守ってくださいます。また他の場合にも守ってくださいます。神さまはあなたに起きるすべての事からあなたを守ってくださいます。

何とすばらしい神さまでしょう！ダビデが考えたように考えてください。神さまは畏るべきお方です。人間の言葉はこれを言い表すことができませんし、人間の心は神さまの偉大さを理解することもできません。人間の心にある最も偉大な思いは神さまの思いです。

(国際CEF会長)

日本CEF(日本児童福音伝道協会)

〒311-3434 茨城県小美玉市栗又四ヶ2421-6

TEL 0299(28)2031 URL:<http://www.cef.or.jp>

FAX 0299(28)2028 Eメール [japancef@cef.or.jp](mailto:japancef@cef.or.jp)

振替 00160-1-59313

(宗) 日本児童福音伝道協会